

# 細川正義教授・略歴と業績

## 学歴

一九六七年三月 香川県立丸亀高等学校卒業

一九六八年四月 関西学院大学文学部日本文学科入学

一九七二年三月 関西学院大学文学部日本文学科卒業

一九七二年四月 関西学院大学大学院文学研究科博士課程前期課程日本文学専攻入学

一九七四年三月 関西学院大学大学院文学研究科博士課程前期課程日本文学専攻修了 文学修士

修士論文題目『芥川文芸の世界』

一九七四年四月 関西学院大学大学院文学研究科博士課程後期課程日本文学専攻入学

一九七七年三月 関西学院大学大学院文学研究科博士課程後期課程日本文学専攻単位取得満期退学

## 学位

二〇一五年二月 関西学院大学 博士（文学） 博士論文題目『島崎藤村文芸研究』

## 職 歴

一九七六年四月～一九七九年三月	九州女学院短期大学専任講師
一九七九年四月～一九八四年三月	九州女学院短期大学助教
一九八四年四月～一九九〇年三月	九州女学院短期大学教授
一九九〇年四月～一九九一年三月	関西学院大学文学部助教
一九九一年四月～現在に至る	関西学院大学文学部教授
一九九一年四月～一九九三年三月	関西学院大学文学部学生副主任
一九九三年四月～一九九四年三月	関西学院大学清風寮舎監
一九九三年四月～二〇〇〇年三月	梅花短期大学非常勤講師（「日本近代文学史」担当）
一九九四年四月～一九九七年三月	関西学院大学学生副部長
一九九五年四月～現在に至る	関西学院大学大学院文学研究科博士課程前期課程指導教授
一九九七年四月～現在に至る	関西学院大学大学院文学研究科博士課程後期課程指導教授
一九九七年四月～二〇〇一年三月	関西学院大学学生部長
二〇〇〇年四月～二〇〇八年三月	甲南大学文学部非常勤講師（「現代文学講読」担当）
二〇〇一年四月～現在に至る	関西学院大学清風寮舎監
二〇〇七年四月～二〇〇八年三月	関西学院総合体育館館長、関西学院大学体育会会長
二〇〇八年四月～二〇一一年三月	関西学院大学副学長、学校法人関西学院理事

## 所属学会・研究会

一九七二年四月～現在に至る 日本文芸学会会員、代表理事（二〇一三年六月～現在に至る）

一九七四年四月～現在に至る 日本近代文学会会員

一九七四年四月～現在に至る 日本キリスト教文学会会員、関西支部支部長（二〇一一年七月～現在に至る）

一九七四年十一月～現在に至る 島崎藤村学会会員、理事・編集委員長（二〇〇三年九月～現在に至る）、副会長（二〇一〇年九月～現在に至る）

一九九一年六月～現在に至る 阪神近代文学研究会会員（現在、阪神近代文学会に改称）、会長（二〇〇三年七月～二〇〇七年七月）

二〇〇六年九月～現在に至る 国際芥川龍之介学会会員、理事・編集委員長（二〇〇七年九月～現在に至る）、副会長（二〇一〇年九月～現在に至る）

二〇〇六年九月～現在に至る 遠藤周作学会会員、運営委員（二〇〇六年九月～現在に至る）

## 業績一覧

### 著書・共著

『島崎藤村―課題と展望』伊東一夫編（「破戒」の成立） 一九七九年十一月 明治書院

『熊本の文学』熊本近代文学会編（小山勝清論） 一九八五年九月 審美社

『近代思想・文学の伝統と変革』伊東一夫編（夏目漱石『三四郎』の世界） 一九八六年九月 明治書院

『現代の日本文学——二葉亭から大江まで』佐藤泰正、遠藤祐、斉藤和明編（川端康成「山の音」）

一九八八年 一月 明治書院

『熊本の文学』第二 熊本近代文学会編（戸川秋骨——「文学界」時代と青春——）

一九八八年 一月 審美社

『近代の文芸』玉置邦雄編（森鷗外「阿部一族」論）

一九九〇年 一〇月 和泉書院

『作品論 遠藤周作』笠井秋生、玉置邦雄編（海と毒薬）論

二〇〇〇年 一月 双文社出版

『生誕一二〇年 芥川龍之介』関口安義編（『支那游記』——大きな転機を与えた中国体験）

二〇一二年 二月 翰林書房

『島崎藤村文芸研究』

二〇一三年 八月 双文社出版

『芥川龍之介と切支丹物』宮坂覺編（初期キリスト教もの——芥川文芸の命根をとらえたキリスト教——）

二〇一四年 四月 翰林書房

## 論文

『菌車』の世界

一九七四年 六月 『日本文芸研究』第二六卷第二号

関西学院大学日本文学会

芥川『地獄変』の世界

一九七四年 八月 『人文論究』第二四卷第二号

関西学院大学人文学会

『奉教人の死』の世界

一九七四年 一〇月 『日本文芸学』第九号

日本文芸学会

藤村『破戒』の世界

一九七五年 三月『日本文芸研究』第二七卷第一号

関西学院大学日本文学会

『玄鶴山房』の世界

一九七五年 六月『人文論究』第二五卷第一号

関西学院大学人文学会

藤村『新生』の世界

一九七六年 三月『人文論究』第二五卷第四号

関西学院大学人文学会

『若菜集』の世界

一九七六年一〇月『日本文芸学』第一一号

日本文芸学会

『春』の世界 — 藤村の〈春を待つ〉心に於いて —

一九七六年一二月『九州女学院短期大学学術紀要』第二号

九州女学院短期大学

藤村『緑葉集』の世界 — 「水彩画家」試論 —

一九七七年一二月『九州女学院短期大学学術紀要』第三号

九州女学院短期大学

『桜の実の熟する時』論

一九七八年一月『日本文芸学』第一三三号

日本文芸学会

『家』の構造 — 新しい家のモチーフについて —

一九七八年一二月『九州女学院短期大学学術紀要』第四号

九州女学院短期大学

『春』の世界

一九七九年 五月『島崎藤村文芸研究』第四号

島崎藤村学会

藤村『破戒』の文芸性 — 丑松像の形象をめぐる —

一九八〇年 三月 『九州女学院短期大学学術紀要』第五号

『新生』の構造

一九八〇年 九月 『方位』創刊号

藤村文芸とキリスト教

一九八一年 三月 『九州女学院短期大学学術紀要』第六号

有吉佐和子文芸の世界 — 女性復権への祈り —

一九八一年 四月 『方位』第二号

藤村文芸における透谷像 — その受容と継承の有り様について —

一九八一年 七月 『キリスト教文学』創刊号

藤村の抒情詩 — 『若菜集』の成立 —

一九八二年 三月 『九州女学院短期大学学術紀要』第七号

『海へ』 — 渡仏体験から『新生』に至る過程を中心に —

一九八二年 五月 『キリスト教文学』第二号

『玄鶴山房』論

一九八二年 五月 『方位』第四号

島崎藤村『嵐』試論

一九八二年一月 『方位』第五号

関西学院大学日本文学会

近代文学研究会編 双文社出版

九州女学院短期大学

近代文学研究会編 双文社出版

日本キリスト教文学会九州支部

九州女学院短期大学

日本キリスト教文学会九州支部

近代文学研究会編 三章文庫

近代文学研究会編 三章文庫

藤村『春をまちつつ』の世界

一九八三年 三月『日本文芸研究』第三五卷第一号

夏目漱石『こころ』の世界

一九八三年 三月『九州女学院短期大学学術紀要』第八号

『三四郎』論 ―美禰子の〈寂寥〉を視座として―

一九八三年 七月『方位』第六号

今西祐行の世界 ―児童文芸にかける〈祈り〉の原点―

一九八四年 三月『方位』第七号

藤村『落梅集』の意義 ―詩から散文への方法と主題を探って―

一九八四年 三月『九州女学院短期大学学術紀要』第九号

『新生』の世界 ―渡仏体験への形象を中心に―

一九八四年一二月『日本文芸学』第二一号

『新生』の構造

一九八四年一二月『島崎藤村研究』第一二号

遠藤周作文芸とキリスト教

一九八五年 三月『九州女学院短期大学学術紀要』第一〇号

今西祐行児童文芸の意義 ―『肥後の石工』を中心に―

一九八六年 三月『九州女学院短期大学学術紀要』第一一号

関西学院大学日本文学会

九州女学院短期大学

近代文学研究会編 三章文庫

近代文学研究会編 三章文庫

九州女学院短期大学

日本文芸学会

島崎藤村学会 双文社出版

九州女学院短期大学

九州女学院短期大学

藤村詩とキリスト教

一九八六年二月『方位』第一〇号

近代文学研究会編 三章文庫

椋鳩十児童文芸の世界

一九八八年 三月『九州女学院短期大学学術紀要』第一三号

九州女学院短期大学

『家』論 — 女性達の形象の意図を中心に —

一九八九年一月『近代文学論集』第一五号

日本近代文学会九州支部

藤村詩の形成 — ダンテ『神曲』の影響を中心に —

一九九〇年 七月『日本文芸研究』第四二卷第二号

関西学院大学日本文学会

平常心のうたをつらぬいて — 中村汀女小論 —

一九九〇年 八月『方位』第一三三号

近代文学研究会編 三章文庫

福永武彦『草の花』論

一九九一年 四月『日本文芸研究』第四三卷一号

関西学院大学日本文学会

『破戒』の構造

一九九二年 九月『日本文芸研究』開設五〇周年記念号

関西学院大学日本文学会

藤村文芸における関西漂泊の意義 — 神戸来訪の謎をめぐって —

一九九六年 九月『日本文芸研究』第四八卷第二号

関西学院大学日本文学会

『菌車』論 — 宗教的〈救い〉の視点において —

一九九七年 八月『キリスト教文藝』第一四輯

日本キリスト教文学会関西支部



『新生』における宗教性 ―リモージュ体験を中心にして―

一九九八年一〇月 『キリスト教文藝』第一五輯

島崎藤村『桜の実の熟する時』 ―捨吉像の変化の意義―

一九九九年 三月 『日本文芸研究』第五〇巻第四号

芥川龍之介『南京の基督』論

二〇〇〇年 二月 『人文論究』第四九巻第四号

島崎藤村『ある女の生涯』論 ―おげんの生涯の意義―

二〇〇二年 二月 『人文論究』第五一卷第四号

『ある女の生涯』論 ―ある女の生涯・〈夜明け前〉の意義―

二〇〇二年 九月 『島崎藤村研究』第三〇号

夏目漱石『こゝろ』論 ―漱石文芸における『こゝろ』の意義―

二〇〇二年一二月 『人文論究』第五二巻第三号

芥川龍之介とキリスト教 ―『西方の人』にいたる道

二〇〇四年 一月 『国文学解釈と鑑賞別冊』「芥川龍之介 その知的空間」

島崎藤村『東方の門』論 ―藤村における東と西―

二〇〇四年一二月 『日本文芸研究』第五六巻第三号

島崎藤村『夜明け前』論（上）

二〇〇五年 五月 『人文論究』第五五巻第一号

日本キリスト教文学会関西支部

関西学院大学日本文学会

関西学院大学人文学会

関西学院大学人文学会

島崎藤村学会編 双文社出版

関西学院大学人文学会

至文堂

関西学院大学日本文学会

関西学院大学人文学会

島崎藤村『夜明け前』論（下）

二〇〇五年 九月『日本文芸研究』第五七卷第二号

関西学院大学日本文学会

遠藤周作文芸とキリスト教 ―『沈黙』に至る道―

二〇〇六年 五月『人文論究』第五六卷第一号

関西学院大学人文学会

島崎藤村『春』論 ―〈春を待つ心〉において―

二〇〇七年 五月『人文論究』第五七卷第一号

関西学院大学人文学会

芥川の社会意識

二〇〇七年 九月『国文学解釈と鑑賞』芥川龍之介再発見』第七二巻第九号 至文堂

芥川龍之介『南京の基督』とキリスト教

二〇〇七年 九月『芥川龍之介研究』創刊号

国際芥川龍之介学会

島崎藤村『新生』における「告白」の意義

二〇〇八年 五月『人文論究』第五八巻第一号

関西学院大学人文学会

芥川龍之介の〈死〉意識と芸術

二〇〇九年 五月『キリスト教文学研究』第二六号

日本キリスト教文学会

島崎藤村『家』論 ―〈新しい家〉の構築をめざして―

二〇〇九年 五月『人文論究』第五九巻第一号

関西学院大学人文学会

島崎藤村『海へ』論 ―「渡仏体験」における〈旅〉と〈海〉の意義―

二〇一〇年 五月『人文論究』第六〇巻第一号

関西学院大学人文学会

島崎藤村『水彩画家』論

二〇一一年 五月『人文論究』第六一卷第一号

関西学院大学人文学会

作品論「こわい顔して創作余談」

二〇一一年 六月『太宰治研究』第一九号

和泉書院

司馬遼太郎文芸の方法 ―『坂の上の雲』論―

二〇一二年 五月『人文論究』第六二卷第一号

関西学院大学人文学会

文明批評家・島崎藤村

二〇一三年 五月『人文論究』第六三号第一号

関西学院大学人文学会

島崎藤村の小説の方法 ―田山花袋の存在と影響―

二〇一四年 三月『日本文藝學』第五〇号

日本文芸学会

近代日本文学史の中の「原田の森と関西学院」―キリスト教主義教育との関連において―

二〇一五年 五月『人文論究』第六四卷第一号

関西学院大学人文学会

島崎藤村文芸とキリスト教

二〇一五年 三月『日本文芸研究』第六六卷第二号 小倉肇教授退任記念号

関西学院大学日本文学会

芥川龍之介文芸におけるキリスト教受容の問題

二〇一五年 五月『人文論究』第六四卷第四号、第六五卷第一号

関西学院大学人文学会

芥川龍之介『奉教人の死』論 ―キリスト教への関心の意義―

二〇一六年 五月『人文論究』第 六六卷第一号

関西学院大学人文学会

事典・注解

『芥川龍之介研究』 菊池弘、久保田芳太郎、関口安義編（分担）「手巾」「山鳴」の項目

一九八一年 三月

明治書院

『芥川龍之介事典』 菊池弘、久保田芳太郎、関口安義編

（分担）「池大雅」「回向院」「骨董羹」「柳原白蓮」「槍ヶ岳」の項目

一九八五年一二月

明治書院

『夏目漱石事典』 三好行雄編（分担）「死」の項目

一九九〇年 七月

学燈社

『明治・大正・昭和作家研究大事典』 重松泰雄監修（分担）「有吉佐和子」の項目

一九九二年 九月

桜楓社

『世界・日本 キリスト教文学事典』 遠藤祐、高柳俊一、山形和美編

（分担）「有吉佐和子」の項目

一九九四年 三月

教文館

『芥川龍之介全集』 第一二巻 全注解

一九九六年一〇月

岩波書店

『芥川龍之介全作品事典』 関口安義、庄司達也編

（分担）「おぎん」「小説の読み方」「南京の基督」「滝田哲太郎氏」「山鳴」「続西方の人」の項目

二〇〇〇年 六月

勉誠出版

『芥川龍之介新辞典』関口安義編（分担）「南部修太郎」「ジャーナリスト」の項目

二〇〇三年 二月

翰林書房

『大阪近代文学事典』日本近代文学会関西支部事典編集委員会編

（分担）「今西祐行」「高安国世」「高安やす子」の項目

二〇〇五年 五月

和泉書院

『兵庫近代文学事典』日本近代文学会関西支部事典編集委員会編

（分担）「山本周五郎」「高安国世」「中島秋男」「實方清」「吉岡美国」の項目

二〇一一年 一月

和泉書院

『世界宗教百科事典』世界宗教百科事典編集委員会編（編集委員長 井上順孝）

（分担）「キリスト教と日本文学」の項目

二〇一二年 二月

丸善出版

『京都近代文学事典』日本近代文学会関西支部事典編集委員会編

（分担）「多田容子」「石川九楊」の項目

二〇一三年 五月

和泉書院

小論

日本文学つれづれ近現代文学編「第一回「温き心」の持ち主 芥川龍之介」

「第二回 文明批評家・島崎藤村」

二〇〇七年 四月 数研出版 国語通信『つれづれ』第一〇号 数研出版

日本文学つれづれ近現代文学編「第三回 愛することを「真面目」に追求した作家 —「こころ」の先生 夏目漱石」

二〇〇七年 九月 数研出版 国語通信『つれづれ』第一一号 数研出版

日本文学つれづれ近現代文学編「第四回 近代日本の〈青春〉への提言者 森鷗外 —「舞姫」の豊太郎の煩悶—」

二〇〇七年 一二月 数研出版 国語通信『つれづれ』第一二号 数研出版

日本文学つれづれ近現代文学編「第五回 悲運の芸術家・執念の芸術家 中島 敦 —「山月記」李徴の慟哭と咆哮が

伝えるもの—」

二〇〇八年 四月 数研出版 国語通信『つれづれ』第一三号 数研出版

日本文学つれづれ近現代文学編「第六回 孤独・寂寥・求愛 太宰治 —「富岳百景」月見草にかける願い—」

二〇〇八年 九月 数研出版 国語通信『つれづれ』第一四号 数研出版

日本文学つれづれ近現代文学編「第七回 日本の美への探究 谷崎潤一郎 —「春琴抄」春琴と佐助の愛の形—」

二〇〇九年 四月 数研出版 国語通信『つれづれ』第一五号 数研出版

日本文学つれづれ近現代文学編「第八回「家族の喪失」からの回復 よしもとばなな —「キッチン」桜井みかげの向

日性—」

二〇〇九年 九月 数研出版 国語通信『つれづれ』第一六号

数研出版

日本文学つれづれ近現代文学編「第九回 病魔を抱えた魂の方向梶井基次郎——「檸檬」檸檬爆弾の意味」

「第一〇回「日本の精神風土への愛の試み 遠藤周作——「沈黙」弱者と母性の論理」

二〇一〇年 九月 数研出版 国語通信『つれづれ』第一八号 数研出版

日本文学つれづれ近現代文学編「第一一回 芸術への清新な理想を求める志賀直哉——「清兵衛と瓢箪」の清兵衛像」

二〇一一年 四月 数研出版 国語通信『つれづれ』第一九号 数研出版

日本文学つれづれ近現代文学編「第一二回 人間の心の捉え難さに対峙し続けた夏目漱石——『こころ』の先生の寂寥の意義——」

二〇一一年 九月 数研出版 国語通信『つれづれ』第二〇号 数研出版

日本文学つれづれ近現代文学編「第一三回 人間を愛し、青年の未来を願い、日本の将来に希望を抱き続けた司馬遼太郎——世界の中の日本をまなざす『竜馬がゆく』の坂本竜馬像——」

二〇一二年 四月 数研出版 国語通信『つれづれ』第二一号 数研出版

日本文学つれづれ近現代文学編「第一四回「海」への憧憬と牧歌性に託したユートピア 三島由紀夫——至純な愛の

世界「潮騒」の新治と初江——」

二〇一二年 九月 数研出版 国語通信『つれづれ』第二二号 数研出版

日本文学つれづれ近現代文学編「第一五回 人の優しさと哀しさと温かさに眼を注ぎ続ける作家 小川洋子——自分の心に真つ直ぐ向かって生きた少女の物語ミナナの行進——」

二〇一三年 四月 数研出版 国語通信『つれづれ』第二三号 数研出版

日本文学つれづれ近現代文学編「第一六回 神の愛とゆるしの希求 三浦綾子 —ゆるすことの難しさに立ちどまる

「ひつじが丘」のストレイシープたち—」

二〇一三年 九月 数研出版 国語通信『つれづれ』第二四号 数研出版

日本文学つれづれ近現代文学編「第一七回 かけがえのないものを伝える作家 山田詠美 —「進歩させるべきでない

領域」を眼差す「ぼくは勉強ができない」—」

二〇一四年 四月 数研出版 国語通信『つれづれ』第二五号 数研出版

日本文学つれづれ近現代文学編「第一八回 人間を凝視し、誠実に生きる人間像を描き続けた作家 山本周五郎 —

〈真実の愛〉に気付かせる物語『柳橋物語』—」

二〇一四年九月 数研出版 国語通信『つれづれ』第二六号 数研出版

日本文学つれづれ近現代文学編「第一九回 寂寥と孤独に対峙しながら芸術の意義を問い続けた作家 芥川龍之介

—エゴイズムと戦う下人像を描いた『羅生門』—」

二〇一五年四月 数研出版 国語通信『つれづれ』第二七号 数研出版

日本文学つれづれ近現代文学編「第二〇回 太平洋戦争下の人生の真摯な生き方 太宰 治 —『正義と微笑』 芹川進

の〈決意〉—」

二〇一五年九月 数研出版 国語通信『つれづれ』第二八号 数研出版

日本文学つれづれ近現代文学編「第二一回 近代日本の転換期を見据える 夏目漱石 —『三四郎』に描かれた〈迷<sup>ストレイシープ</sup>羊〉

の行方—」

二〇一六年九月 数研出版 国語通信『つれづれ』第三〇号 数研出版



その他

『島崎藤村研究』『研究消息』島崎藤村学会編（その年度の島崎藤村に関する出版書籍、各雑誌へ発表された藤村関係の研究論文に対する講評）第一九号（一九九一年）より第四四号（二〇一六年）まで執筆 一九九一年より継続中

双文社出版（二〇一六年より鼎書房）

『キリスト教文学を学ぶ人のために』（安森敏隆、吉海直人、杉野徹編）

（分担）「夏目漱石『いころ』」「島崎藤村『新生』」執筆

二〇〇二年 九月

世界思想社

『山本周五郎長編小説全集』第八巻、第九巻『正雪記』『解説 歴史のなかから人間性を』

二〇一三年 一二月

新潮社

『山本周五郎長編小説全集』第十三巻『五瓣の椿 山彦乙女』『解説 歴史を超えて訴えてくる人間のかげがえのなさ』

二〇一四年 三月

新潮社

『山本周五郎長編小説全集』第二十三巻『寝ぼけ署長』『解説 人間愛を貫いた推理と解決』

二〇一四年 一月

新潮社

学会発表・講演

芥川龍之介『奉教人の死』の世界

日本文芸学会 第一一回全国大会（園田学園女子大学）

一九七四年 六月

『新生』の文芸性

島崎藤村学会 第二回全国大会（天津市中央公民館）

一九七五年 一月

- 藤村『若菜集』の世界 日本文芸学会 第一三回全国大会（甲南女子大学） 一九七六年 六月
- 藤村とキリスト教 日本キリスト教文学会 九州支部大会（熊本女子大学） 一九七六年 二月
- 藤村『緑葉集』の世界 日本近代文学会 九州支部大会（熊本大学） 一九七七年 七月
- 『桜の実の熟する時』の世界 日本文芸学会 第一五回全国大会（立命館大学） 一九七八年 六月
- シンポジウム「藤村『新生』に至る道」発題
- 日本近代文学会九州支部大会（北九州大学） 一九七八年 七月
- 島崎藤村における「聖書」 日本キリスト教文学会九州支部 夏季セミナー（南阿蘇国民休暇村） 一九七九年 八月
- 藤村と透谷 日本キリスト教文学会九州支部 夏季セミナー（南阿蘇国民休暇村） 一九八〇年 八月
- 藤村『海へ』論 日本キリスト教文学会九州支部 夏季セミナー（南阿蘇国民休暇村） 一九八一年 八月
- シンポジウム「『破戒』を読む」発題
- 日本キリスト教文学会九州支部 夏季セミナー（南阿蘇国民休暇村） 一九八二年 八月
- 藤村文芸とキリスト教 —『若菜集』と『落梅集』を中心として—
- 日本キリスト教文学会 昭和五八年度全国大会（白百合女子大） 一九八三年 五月
- 島崎藤村学会 昭和五八年度全国大会（高知大学） 一九八三年 一〇月
- 『落梅集』の意義
- 日本文芸学会 第二一回全国大会（関西学院大学） 一九八四年 五月
- 藤村『新生』論
- 日本キリスト教文学会九州支部 夏季セミナー（下関マリンホテル） 一九八八年 七月
- 福永武彦『草の花』論
- 藤村詩の形成 —ダンテ『神曲』の影響を中心に—
- 日本キリスト教文学会 平成元年全国大会（聖学院大学） 一九八九年 五月

シンポジウム「現代文学におけるイエス像」発題「島崎藤村とキリスト教」

日本キリスト教文学会 平成三年全国大会（福岡大学） 一九九一年 五月

藤村『夜明け前』論

日本キリスト教文学会関西支部大会（関西学院大学） 一九九三年 七月

シンポジウム「芥川龍之介とキリスト教 ―『歯車』をめぐって』 発題

日本キリスト教文学会関西支部大会（関西学院大学） 一九九六年 一月

シンポジウム「島崎藤村『新生』における宗教性」発題

日本キリスト教文学会関西支部大会（関西学院大学） 一九九七年 一月

『桜の実の熟する時』における宗教性

日本キリスト教文学会 平成一〇年度全国大会（四国学院大学） 一九九八年 五月

講演「遠藤周作『沈黙』論」

韓国メソジスト神学大学校 二〇〇五年 五月

シンポジウム「芥川龍之介『南京の基督』を〈読む〉」での発題「『南京の基督』とキリスト教」

国際芥川龍之介学会 第一回大会（韓国仁川大学校） 二〇〇六年 九月

講演「文明批評家・島崎藤村」

日本文芸学会 二〇〇七年度全国大会（四国学院大学） 二〇〇七年 六月

講演「藤村と関西」

島崎藤村学会 二〇〇七年度全国大会（関西学院大学） 二〇〇七年 八月

シンポジウム「文学における「告白」Ⅱ」での発題「島崎藤村『新生』における「告白」

日本キリスト教文学会九州支部 夏季セミナー（下関マリンホテル） 二〇〇七年 八月

シンポジウム「文学と死」での発題「芥川龍之介と死」

日本キリスト教文学会 二〇〇八年度全国大会（星美学園短期大学） 二〇〇八年 五月

講演「島崎藤村『東方の門』の意義——「東方の門」としての日本」

韓国・日本学連合会 第六回国際学術大会（釜山外国語大学校） 二〇〇八年 七月

シンポジウム「芥川龍之介の切支丹物をどう読むか——日本の精神風土とキリスト教」での発題

「おぎん」から見る「日本の精神風土とキリスト教」の問題」

日本キリスト教文学会 関西支部大会（関西学院大学） 二〇一〇年 一月

シンポジウム「藤村の青春期」での発題 発題タイトル「藤村と神戸」

島崎藤村学会 二〇一一年度全国大会（四国大学） 二〇一一年 九月

講演「島崎藤村の小説の方法——田山花袋の存在にふれて」

田山花袋研究学会 二〇一二年度全国大会（東洋大学） 二〇一二年 六月

シンポジウム「芥川龍之介『歯車』を読む」での発題 発題タイトル「『歯車』における「海」の意義」

日本キリスト教文学会 研究例会（上智大学） 二〇一二年 二月

シンポジウム「現代に生きる芥川龍之介」で同題名での発題

日本キリスト教文学会九州支部 夏季セミナー（梅光学院大学） 二〇一三年 八月

講演「島崎藤村文芸とキリスト教」

第一三回韓国・日本キリスト教文学会（韓国・仁川大学校） 二〇一四年 二月

シンポジウム「都市・震災・文学」での発題 発題タイトル「芥川と震災・文学」

国際芥川龍之介学会 創立一〇周年記念大会（東洋学園大学）

二〇一五年 八月

講演「漱石『行人』と『こころ』の意義 —芥川が存在に触れて—」

「没後99年夏目漱石—漱石山房の人々」特別講演会（菊池寛記念館）二〇一五年 九月

シンポジウム「山本周五郎『赤ひげ診療譚』と遠藤周作『王の挽歌』におけるキリスト教」でのコーディネーター

ー・司会

日本キリスト教文学会 関西支部冬季大会（関西学院大学）

二〇一六年 一月

シンポジウム「キリスト教と〈笑い〉」でのコーディネーター・司会

日本キリスト教文学会 二〇一六年度全国大会（京都外国語大学）

二〇一六年 五月

講演「近代日本文学とキリスト教 —漱石没後一〇〇年、芥川文壇デビュー一〇〇年—」

佐藤泰正先生追悼特別講座（梅光学院大学）

二〇一六年 八月

講演「遠藤周作文芸と阪神間」

遠藤周作学会 二〇一六年度全国大会（関西学院大学）

二〇一六年 九月

講演「島崎藤村における国際性と文明批評」

島崎藤村学会 第四三回全国大会（小諸市市民交流センター「ステラホール」）

二〇一六年 九月

シンポジウム「夏目漱石とキリスト教 —『門』をめぐる—」でのコーディネーター・司会

日本キリスト教文学会 関西支部大会（関西学院大学）

二〇一七年 一月